

瑛九が亡くなって今年で 65 年になりますが、生前から現在に至るまで、様々な場所で瑛九に関連する展覧会などが開かれています。これまで、瑛九とその作品について関係者や研究者らによって、展覧会の図録や雑誌等の書籍、新聞などで語られてきました。最もプライベートな様子を知る家族、美術団体等で活動した仲間らが、瑛九への思いを記したものは数多くあります。中には瑛九へ語りかけるように表現したり、詩の形式をとったりする人たちもいました。また、評論家や研究者たちは肯定的な点と批判的な点の両方から瑛九の作品について論じています。

ここでは、それぞれが語る「瑛九」と「瑛九の作品」を通して、瑛九が人々にどのようにとらえられてきたのか、作品や資料とともに紹介します。

## ■展示作品リスト

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	大きさ(cm)	技法
1	瑛九	1911～1960	ザメンホフ像	1934 (昭和9)	53.1×41.0	油彩
2	瑛九	1911～1960	題不明	1937 (昭和12)	23.7×16.7	フォト・コラージュ
3	瑛九	1911～1960	題不明	1935 (昭和10)	29.8×25.0	フォト・デッサン
4	瑛九	1911～1960	フォト・デッサン集『眠りの理由』より	1936 (昭和11)	27.2×21.9	フォト・デッサン
5	瑛九	1911～1960	フォト・デッサン集『眠りの理由』より	1936 (昭和11)	22.0×27.0	フォト・デッサン
6	瑛九	1911～1960	フォト・デッサン集『眠りの理由』より	1936 (昭和11)	21.8×27.1	フォト・デッサン
7	瑛九	1911～1960	フォト・デッサン集『眠りの理由』より	1936 (昭和11)	22.1×27.1	フォト・デッサン
8	瑛九	1911～1960	真岡風景	1938 (昭和13)	41.4×53.2	油彩
9	瑛九	1911～1960	フミタ写真館	1941 (昭和16)	45.4×33.7	油彩
10	瑛九	1911～1960	赤衣	1948 (昭和23)	33.5×24.4	油彩
11	瑛九	1911～1960	題不明	不明	40.7×31.6	油彩
12	瑛九	1911～1960	籠目の青	1957 (昭和32)	72.9×53.3	油彩
13	瑛九	1911～1960	みづうみ	1957 (昭和32)	91.3×116.3	油彩
14	瑛九	1911～1960	青のれいめい	1957 (昭和32)	33.4×45.5	油彩
15	瑛九	1911～1960	飛びちる花びら	1958 (昭和33)	80.3×116.3	油彩
16	瑛九	1911～1960	田園B	1959 (昭和34)	130.7×194.0	油彩
17	瑛九	1911～1960	街B	1953 (昭和28)	23.9×17.5	エッチング
18	瑛九	1911～1960	乱舞	1953 (昭和28)	23.4×18.0	エッチング
19	瑛九	1911～1960	背中合せ	1952 (昭和27)	14.5×13.0	エッチング
20	瑛九	1911～1960	魔魚	1954 (昭和29)	23.6×18.1	エッチング
21	瑛九	1911～1960	あくまのおどり	1953 (昭和28)	36.2×26.7	エッチング
22	瑛九	1911～1960	会話	1951 (昭和26)	30.0×25.2	フォト・デッサン
23	瑛九	1911～1960	友達	1952 (昭和27)	45.6×56.0	フォト・デッサン
24	瑛九	1911～1960	赤い風船	1957 (昭和32)	23.3×15.8	リトグラフ
25	瑛九	1911～1960	枯葉	1957 (昭和32)	24.3×15.1	リトグラフ